



発行 自衛隊札幌病院 豊友会事務局 第64号 令和元年8月

令和元年がスタートし数ヶ月が過ぎました。昔年の日付欄に「平成」と書き始める書きぶりも減って来たでしょうか。『失敗の科学』(マシモ サイード著) という本にこんな話が紹介されています。第2次世界大戦当時、爆撃機のパイロットは生き残る確率がほぼ五分五分だと言われていたほど大きなリスクを背負って敵国の上空を飛行していましたが、司令部は敵の砲撃からパイロットを守るために爆撃機を強化する装甲が必要だと考えました。たまたま、爆撃機全体を装甲で覆うと機体が重くなりすぎて操縦が困難になるため優先順位を調査することになりました。調査してみると、爆撃機の損傷には明確なパターンがありました。多くは翼も胴体も壊れるように穴が開いていました。そこで、司令部は穴を開けた部分に装甲を施すという対策をたてました。しかし調査に当たったパイロットは反対しました。なぜなら、コックピットと尾翼を撃たれたら掃蕩できなかったのだという話に気づいたからです。つまりコックピットと尾翼を撃たれても壊壊されてしまった爆撃機は掃蕩できず、調査対象には入っていきなかつたというわけです。この話は、問題の本質を正確にとらえることの難しさと大切さを教えてくれます。

我々は、医療看護上問題になった事象をインシデントレポートとして収集し、分析、対策を立案し実行しています。この話は、一つの重大事故の後には30の軽微な事故があり、その半数には、29の異常があるという「インシデントの法則」の考えに基づき、軽微な事故あるいは異常の段階で対策を立て重大な事故を未然に防止しようとするものです。一つひとつのインシデントから、問題の本質は何かあるのか、シミュレーションの観点から、インシデントなのか、一部の部分に焦点を当てた対策を立案すれば良いのか、十分に検討する必要があります。表面的な事象でのみ目を奪われてしまっていては対応が疎かになります。爆撃機の話では、翼と胴体部分に装甲を施したとすれば、機体が重くなりすぎて操縦が難しくなる確率が高くなるという懸念が生まれます。より安心安全な医療・看護を提供するために病院機能の向上はもろろのこと、確実な医療安全の担保は最も大切な機能の一つといえます。病院職員全員が「この肝」をしっかりと努力していきましょ。



「失敗の科学」

自衛隊札幌病院長 陸将 大鹿 芳郎

令和元年は、新陳代謝も進まず、単なる音仲間集団になってしまえば、先進の努力で築かれた、全国の自衛隊病院の中でも誇れるOJ会組織である豊友会はいずれ準備が完了し、消滅の危機に陥るかもしれない。新たな人達が入会して、新しい豊友会に変われば、活性化もなしに未来もない。そんな中、自衛隊札幌病院に共に働き中途退官後も豊友会に入会して活躍する医師達が少なからずいる。時代は変わっていきながらも、積極的な豊友会活動に力を入れ、豊友会を引っ張って欲しいと願っています。そこで、豊友会は活性化し、明るい未来が築かれるよう目指しています。今、豊友会事務局、役員の方々に、自衛隊札幌病院の近況豊友会の支援活動、個々の会員の様々な活動の状況等をホームページや新聞を通じてより早く、確実に皆様にお知らせし、オープンでなおかつ双方向的、そして豊友会が講演会の実施を定着させるまで、より有意義な会を目指してまいります。さらには役員等の新陳代謝の促進も豊友会が永く維持発展するべく努力してまいります。それを現実化するためには、新しい指導者、代表者が是非とも必要なのです。自衛隊札幌病院と共に働いた医師をはじめとした皆様、それらを託したいと思っております。

風靡する「令和」の時代の幕開けとなりました。平成は、人々の生活様式や価値観が多様化した時代とも言えます。他方で、少子化や高齢化の進行は、日本のみならず、この問題にどういふ考えをいかに重要な時代になっているかと思えます。また、地震、津波、台風や集中豪雨といった数多くの自然災害に見舞われた時代でもありました。そんな中、自衛隊札幌病院は、災害支援活動を行ない、それが後の自衛隊災害派遣での医療支援活動の参考になっています。そして平成の時代から始まったOJ活動においても自衛隊札幌病院は、医師を中心とした医療従事者の派遣においても大きな役割を果たしてきました。豊友会もその都度、札幌病院の支援をいかに形で行ってまいりました。令和の時代になった現在も会員の皆様と心を一つにし、苦楽を共にする姿勢で、自衛隊札幌病院のOJ会として病院を支え、相互に協力し合っていく豊友会の基本的な在り方は、いささかも変わるものではありません。しかし、現在の自衛隊の任務に際した札幌病院の役割の変化はあるでしょうか。そして、それに呼応して豊友会の役割も変わっていくか否かは、なりません。



「豊友会会長の挨拶」

自衛隊札幌病院豊友会 会長 古家 隆司

1 事務局長挨拶 事務局長:竹村 昇良 豊友会会員の皆様、今年も元気にお過ごしでしょうか、元号が改められ令和という新しい時代に初めて豊友会誌を発行出来ることは誠に嬉しいことと感じております。令和においてもこの会を継続発展させていくためには、お互いに協力し合う事が必要で、自衛隊札幌病院に対する愛と感謝また、豊友会に対する愛と感謝を深く持つて頂くことが必要と考えています。今後ともご協力宜しくお願いいたします。平成30年度北部防衛衛生学会懇親会支援を実施(平成31年1月23日)し、令和元年6月9日に豊友会主催で自衛隊札幌病院創立記念祝賀会と豊友会の懇親会を盛大に開催することが出来たことを皆様にご報告申し上げます。



- 2 平成31年(令和元年)度役員会・定期総会等 (1)平成31年度役員会 平成31年4月13日(土)23名の役員に参加を得て自衛隊札幌病院会議室にて実施し、事業報告・事業計画、収支決算・予算計画の報告・承認を受ける。 (2)令和元年(平成31年)度定期総会 ア 日時・場所:令和元年6月9日(日)1400~ ホテルライフポート札幌 イ 役員会の内容:上記役員会の内容報告、今年度の事業計画・予算計画の承認をいただきました。 (3)令和元年度自衛隊札幌病院創立64周年及び豊友会の懇親会の実施 ア 日時・場所:令和元年6月9日(日)1700~ ホテルライフポート札幌(147名参加) イ 慶弔等への対応:記念品贈呈(新年会時及び誕生日自宅へ発送)、葬儀時の供花・香典の処置 (7)叙勲受章者:瑞宝双光章:寺尾雅彦様 瑞宝単光章:大久保敬子様、藤山都様 (4)長寿者への記念品贈呈 米寿:轉光男様、阪本利明様、酒向劉三様、南幸介様、鈴木本一様 傘寿:田邊要幸様 (5)長寿のお祝いは来年度から数年齢ではなく満年齢で実施する事を審議・決定いたしました。 (エ)会員の逝去:奥村勇様(65歳)は令和元年8月16日逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。 (オ)自衛隊札幌病院からの表彰:千葉三枝子様(感謝状)



- ウ 講演会の実施:1400~ (147名参加) 「がん免疫病理学による個別化がん治療の展望」 札幌医科大学医学部病理学第一講座:鳥越俊彦教授様 3 新年会及び令和元年度予定 ・新年会:令和2年1月中旬予定、場所:ホテルライフポート札幌予定 ・役員会:4月実施予定 ・豊友新聞の発行:年2回(8月・1月発行予定) ・平成30年度から現時点までの豊友会入会者(13名) 中島要二様、鈴木義裕様、菅原毅様、野田幸一様、福島勉様、近藤伸彦様、池上欣也様、松下修様、長原純一様、坪佳子様、津村直実様、川東隆之様、牧山博子様、柏葉祐司様、千先康二様、上部泰秀様 ・令和2年長寿者記念品贈呈予定者は満年齢に変更したため該当者なし、令和3年から該当者に贈呈



料理クラブ(レシピ紹介)

会員 大久保 敬子 (南区)

鮭とジャガイモの味噌たれ焼き

(材料) 4人分

- 鮭・・・4切れ(甘塩)
- ジャガイモ・・・3~4個
- 小麦粉・・・適量
- サラダオイル・・・少量
- バター・・・大さじ1
- 小ねぎ・・・適量



味噌だれ調味料(保存用)

- 味噌・・・200g
- 砂糖・・・160g
- みりん・・・50ml
- 酒・・・100ml
- 柚子・・・少々(お好みでOK)
- *色々な料理に使えますので、一度に作っておくと便利です。

鍋に柚子以外の調味料を入れて混ぜながら照りができるまで煮詰めていく。
火を止め、柚子を加える。

MEMO

今回は我が家の「秘伝の味噌だれ」(笑)をお伝えしたくてこのレシピにしましたが、もっと簡単な「味噌マヨ和え」でも美味いので是非、お試しください。

(作り方)

- ジャガイモは皮のままレンジ又は茹でておく。皮を剥き3~4等分に切る。
- 鮭は2~3等分に切り、小麦粉を軽くまぶす。小ねぎは小口切りにする。
- 熱したフライパンにサラダオイルを入れて鮭の身を下にして2分位焼き、鮭を裏返し皮面を2~3分焼く。
- 余分な油はキッチンペーパーで拭き取り、①を入れ、バターを入れて軽く炒める。
- 「味噌だれ」大さじ2を加え、全体にからめる。(味見して味噌だれを足して調整する)
- 器に盛り、小ねぎを散らす。

味噌マヨ和え 調味料

- 味噌・・・大さじ1/2
- マヨネーズ・・・大さじ3
- 酒・・・大さじ1

「味噌だれ」の活用料理紹介

- 味噌おでん
- ドレッシング (お酢+オリーブオイル)
- 味噌カツ
- 田楽
- 肉、魚、野菜料理の調味料

etc

《人事異動等》

自衛隊札幌病院

平成31年春の異動「転入者」

転入先	階級等	氏名	元勤務
看護部	2位	大石 直由	中央病院(事務系)
看護部	2位	佐藤 尚香	第11地区衛生院
看護部	2位	川藤 純美	東部方面外科
診療技術部	2位	大野 悠一	中央病院
看護部	1尉	佐藤 基子	中央病院
看護部	2尉	西田 隼仁	鹿野駐屯地病院
看護部	2尉	高橋 悠香	第3地区支援部
看護部	2尉	澤島 博	第7地区支援部
看護部	曹長	藤原 明彦	北海道庁病院
診療技術部	1曹	白根 裕彦	第11地区支援部
看護部	2曹	本郷 泰志	北部方面外科
診療技術部	2曹	高橋 謙二	第7地区支援部
診療技術部	2曹	藤本 晃	第3地区支援部
看護部	2曹	山崎 成彦	第11地区支援部
診療部	2曹	船越 康紀	第3地区支援部
診療技術部	2曹	香住 千寿	四国駐屯地病院
看護部	2曹	中山 洋	第2地区支援部

平成31年春の異動「転出者」

所属	階級等	氏名	転出先
看護部	1位	倉田 加子	中央病院(事務系)
看護部	2位	三浦 千穂	中央病院
看護部	2位	野村 彩乃	北部方面外科
衛生室	1尉	藤澤 高樹	四国駐屯地病院
衛生室	1尉	藤本 達也	www.mhlw.go.jp
看護部	2尉	六井 亮太	第7地区支援部
看護部	3尉	野村 聖花	第3地区支援部
診療技術部	曹長	藤田 隆夫	衛生室(衛生科)
診療技術部	1曹	八田 幸太	鹿野駐屯地病院
看護部	1曹	藤原 博一	北部方面外科
診療技術部	2曹	藤見 和太郎	第11地区支援部
看護部	2曹	西原 純	第11地区支援部
看護部	2曹	堀川 吉宣	中央方面外科

平成31年2月の異動「転入者」

転入先	階級等	氏名	元勤務
衛生室	2尉	藤本 ひとみ	中央病院

平成31年春の異動「転入者」(事務官等)

転入先	階級等	氏名	元勤務
庶務課	特(一)2	藤井 康雄	北海道庁
庶務課	特(一)2	松本 雄	東部駐屯地病院
庶務課	特(二)2	田中 洋	中部駐屯地病院

平成31年春の異動「転出者」(事務官等)

所属	階級等	氏名	転出先
庶務課	特(一)2	山口 心広	四国駐屯地
庶務課	特(二)2	野村 浩平	北部方面外科
庶務課	特(一)2	切手 純和	東部駐屯地病院

令和元年夏の異動「転入者」

転入先	階級等	氏名	元勤務
診療部	2位	七崎 純一	東部駐屯地病院
衛生室	2位	伊田 剛	別府病院
看護部	2位	藤地 雅志	中央病院
衛生室	3位	横関 隆二	中央病院
診療技術部	3位	香木 浩明	山形病院
看護部	3位	森島 千夏	中部方面衛生院
看護部	1尉	七本 志子	鹿野駐屯地病院
看護部	1尉	高橋 ユヅル	第2地区支援部
看護部	1尉	清水 由美	北海道庁病院
看護部	1尉	藤原 健史	北部方面外科
看護部	1尉	山本 高史	中央病院
診療部	1尉	辻井 悠二	衛生室
診療部	1尉	藤岡 崇	衛生室
診療部	1尉	藤本 隆子	衛生室
診療部	1尉	高橋 悠香	衛生室
診療部	1尉	加藤 悠	衛生室
診療部	1尉	高橋 和樹	衛生室
診療部	1尉	上野 夏佳	衛生室
診療部	1尉	伊田 裕一	衛生室
看護部	2尉	赤松 一紀	北部方面外科

令和元年夏の異動「転出者」

所属	階級等	氏名	転出先
衛生室	2位	石倉 成輝	北海道庁病院
衛生室	3位	内藤 達也	中央病院
看護部	1尉	藤田 隆夫	衛生室(衛生科)
看護部	1尉	七本 健紀	第2地区支援部
***	1尉	滝 浩典	北海道庁病院
診療部	1尉	本田 康	中央病院
診療部	1尉	中野 光広	中部駐屯地病院
診療部	1尉	高橋 悠香	衛生室(衛生科)
診療部	1尉	川井 幸司	衛生室(衛生科)
診療部	1尉	野村 達也	衛生室(衛生科)
診療部	1尉	藤原 裕香	衛生室(衛生科)
診療部	1尉	森 正平	衛生室(衛生科)
診療部	1尉	岸田 隆太	衛生室(衛生科)
診療部	1尉	野村 康	衛生室(衛生科)
看護部	2尉	山本 高史	北部方面外科
看護部	2尉	中野 明日香	第2地区支援部
看護部	2尉	藤澤 雅志	中央病院
看護部	2尉	藤本 雅也	山形病院
看護部	3尉	野村 彩乃	第7地区支援部
看護部	曹長	中本 由子	第7地区支援部
看護部	曹長	三原 大生	第11地区支援部
看護部	1曹	藤田 和明	北部方面外科

令和元年6月の異動「転入者」

転入先	階級等	氏名	元勤務
診療部	2尉	吉川 隼之	衛生室
診療部	2尉	藤村 悠	衛生室
診療部	2尉	山口 裕亮	衛生室
診療部	2尉	高田 尚太郎	衛生室
診療部	2尉	七本 由佳	衛生室
診療部	2尉	藤原 新大	衛生室

平成31年1月号以降の「定年退官者」

自衛官：長原純一氏(1/16), 坪 佳子氏(2/ 5), 阿部信之氏(3/ 8), 津村直実氏(4/ 5)
 山田幸治氏(5/22), 牧山博子氏(6/20), 洲上紀久氏(6/25), 風間 章氏(6/28)
 柏葉祐司氏(7/31), 市村 晃氏(8/13), 石岡康一氏(8/16)
 事務官等：村上和男氏(3/31), 佐藤美幸氏(3/31), 白川明美氏(3/31)

《行事紹介》

自衛隊札幌病院

自衛隊札幌病院創立64周年記念行事



自衛隊札幌病院は、6月7日(金)、病院創立64周年記念行事を挙行了しました。

大鹿病院長は式辞で「自衛隊札幌病院は北海道唯一の自衛隊病院であり基幹病院であることを改めて自覚し、良質な医療の提供のみならず、各種衛生支援や教育訓練環境の提供など多種多様な役割を果たしていかねばならない」と述べ、一人ひとりが日々成長し、病院機能の向上に努めていくことが不可欠だと述べました。

行事にあわせて実施した感謝状贈呈式では、病院長から各種行事等に対する積極的な支援・協力を実施して院務運営に寄与するともに豊友会会員と病院職員との融和親睦に多大な貢献をされた、豊友会会員 千葉 三枝子氏に感謝状が贈られました。

なお、当日は欠席されましたが、日頃の院務運営の支援に対し、札幌医科大学 成松 英智教授、札幌市医師会南支部長 林下 忠行先生にも後日、感謝状が贈呈されました。

9日(日)には、札幌市内のホナルにおいて札幌医科大学 鳥越 俊彦教授による「がん免疫病理学による個別化がん治療の展望」と題した記念講演会を行い、ご自身の自衛隊札幌病院での勤務経験やアクセラとブレイキに例えた免疫の話など専門知識がなくともわかりやすい内容で聴講者約130名の理解を深めました。

記念講演会に引き続き、豊友会主催による記念祝賀会が開催され、盛況のうちに終了しました。

准看護学院卒後40周年の記念行事

◎ 懐かしい楽しいひと時を過ごしました。



令和元年7月4日

二次会「鹿歌亭」にて



新病院見学



新病院前にて



令和元年7月准看護学院九回(27期)生(九成会)が卒後40周年記念行事(祝賀会、真駒内駐屯地・自衛隊札幌病院見学)を開催しました。道内外から、ご家族を含む14名(卒業生10名)が参加して盛大に実施されました。祝賀会において、卒後40年の時を刻みましたが、皆様のお顔に当時の面影を見ながら、学生時代を懐かしく振り返り、近況を紹介する等、楽しく語り合うことができました。

また、更地になった豊平駐屯地の跡地を感慨深く見、真駒内駐屯地・自衛隊札幌病院を見学して、その変容にも時の流れを感じました。(OBとして広報の一助とさせていただきます。)健康に留意し、これからもご家族共々、いい年を重ね卒後50周年の再会を願い、記念行事を終了しました。見学に際し、配慮いただきましたご担当者様に厚く御礼申し上げます。

PS:参加者の中には「在職中あるいは退職後もいろいろな教育などがあったが何故か准看護学院の2年間で印象に深く引き付けられる。」と言っていました。それ程良い教育をしていただいたのだと思います。

文責 会員 西 湯 吉 男 (南区)

テーマ:生涯教育の実践について

前田隆代(兵庫県神戸市在住)

私は現職の間、職場で生涯教育を進めて参りました。定年後、主人の母の介護もあり、一念発起し、義母の住む神戸に一足先に帰省しました。同時に神戸大学大学院保健学研究科で学ぶ機会を得ました。神戸大学は数多ある兵庫県内の大学の中でも主人の実家から最も近く、当時、90歳の義母に不測事態があってもタクシーを使えば15分で帰宅できる好都合なロケーションでした。博士前期課程で2年間、博士後期課程で5年間学び、今年3月25日に無事、終了することができました。この7年間で私は、①学ぶ機会はどこにでもある。②知ろうと思うことは存在し、知ろうと思わないことは永久に存在しない。という2つのことを学びました。今後も引き続き生涯教育の実践に果敢に取り組んでいこうと気持ちを新たにしております。この度は寄稿する機会を頂きありがとうございました。



《SHGC便り》

○平成31年【令和元年】SHGCゴルフコンペ開幕

平成31年【令和元年】の第1回SHGCが4月28日日曜日に20名の参加を得て、晴天にも恵まれSHGCの聖地のグレート札幌CCで開催されました。

田付会長の開会挨拶の後、プレーが開始され、和気あいあいの中で真剣なプレーが行われました。

大会後、表彰式が行われました。

結果

- 優勝は小野豊様(NET67.0 GROSS77)
- 準優勝が新井敏博様(NET69.0 GROSS89)
- 3位は寺尾雅彦様(NET69.0 GROSS92)

文責 会員 町田陽信



※備考

- 1 HSGCは、昭和47年から活動しています。
- 2 4月から10月まで月1回開催されています。(年7回)
- 3 お問い合わせは、会員 町田陽信(南区)まで

《訓練紹介》

自衛隊札幌病院

初級陸曹特技課程「准看護師」行進訓練



自衛隊札幌病院は、6月21日(金)初級陸曹特技課程「准看護師」の第43期及び第44期学生45名に対して、行進能力、気力・知力・体力及び団結力の向上を図ることを目的として、行進訓練を実施しました。
本訓練は早朝5時の非常呼集を開始し、学生は、北海道大演習場島松地区廠舎跡から約25km先の同真駒内射場地区すすき台を目指しました。
第44期学生は患者役を交代しながら各種地形に応じた搬送及び安全に留意して、担架搬送を実施しました。

第43期学生は、各種地形に応じた通過要領並びに敵及び航空攻撃等の対処要領について演練しつつ、最後の3kmをハイポート行進し、攻撃準備地域に到着しました。その後、攻撃目標のすすき台北側の敵に対して小銃分隊による攻撃を行い、一人の脱落者もなく訓練を無事に終了しました。
なお、第43期学生は、本訓練で得た自信と教訓を胸に、第1陸曹教育隊(7月2日から9月20日まで)及び女性自衛官教育隊(7月8日から9月27日まで)に入校中です。